

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	卵巣明細胞癌における ARID1A 不活化の DNA 修復不全への関与の検討
	研究目的	卵巣明細胞癌が子宮内膜症から発生する過程で初期に発生する遺伝子変異の一つである、がん抑制遺伝子 ARID1A の不活化変異が、DNA 損傷修復を抑制するという細胞実験での結果を我々は既に得ている。これが、臨床検体でも証明されるかを明らかにする目的で、既存の臨床検体の免疫染色等を行う。研究成果は、将来的に早期発見マーカーや新規予防法、治療法の開発に寄与する可能性がある。
	研究対象者	当センターで手術を受けられた卵巣明細胞癌の患者様、対照として他組織型の卵巣癌の患者様、内膜症性嚢胞の患者様
	研究期間	西暦 2018 年 7 月 27 日 ~ 西暦 2019 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	最上 多恵
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	婦人科, 臨床研究所
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし